

授業科目名	子どもの理解と援助	教員名	野崎 秀正	免許・資格との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	○
					こども音楽療育士	
科目番号	TAI206	配当年次	3年後期	卒業要件	小幼コース	
単位数	1単位				幼保コース	○
科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等						
科目	告示別表第1による教科目					
系列	保育の対象の理解に関する科目					
一般目標	<p>子どもの理解と援助の授業では、保育の心理学で学んだ子どもの発達や学びの過程を踏まえ、保育実践において、子ども理解に基づいた的確かつ具体的な援助ができるようになることを目指す。そのためには、子ども一人一人の発達や学びの現状をきちんと把握することはもちろんのこと、その現状を踏まえて、子ども理解を深め、それぞれに適した具体的な援助の方法を学ぶことが必要となる。そのため、本授業では、子ども理解に基づいた援助の手法だけではなく、保育士としての態度についても、理解を深めることを目指して実施される。</p>					
到達目標	<p>(1) 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。  (2) 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。  (3) 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。  (4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</p>					
授業の概要	<p>子どもの理解と援助の授業では、保育の心理学で学習した基礎的な心理学の知識を踏まえ、保育現場での子ども把握の意義や子ども理解の具体的な方法について、学生同士の話し合いやグループでの協同学習を用いた演習形式の学習方法により理解することを目指す。また、それらの子ども把握・子ども理解に基づいた、保育者の具体的な援助や態度の基本についても理解を深め、様々な事例から学びながら、保育実践現場において生かす術を習得する。授業形態は演習とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業計画	<p>第1回：幼児理解の基盤としての子ども観や発達観、保育観について説明する。(目標(1),(2))  第2回：学びの特性を踏まえつつ、子ども一人一人の実態に応じた学びの把握の重要性について概説する。(目標(1),(2))  第3回：生きる力の基礎を育む機会としての幼児教育の重要性と幼児理解の関係について説明する(目標(1),(2))  第4回：子ども一人一人の発達や学びを把握した上での子ども理解の意義について説明するとともに、養護及び教育の一体的展開の重要性についても解説する。(目標(1),(2))  第5回：子どもの発達についての捉え方がどのように変遷してきたのかを中心に、それぞれの発達観における子どもの理解の特徴について概説する。(目標(1),(2))  第6回：子ども理解のための評価の考え方とその方法について説明する(目標(1),(3))  第7回：子どもの生活・遊び・学びの関係性について理解し、保育者がその過程をどのように支援するかについて、特にカリキュラムと指導計画の方法を中心に説明する。(目標(3),(4))  第8回：子どもを理解し、具体的な援助に繋げるために、子どもと子どもを取り巻く環境に対する観察眼を鍛え、それらをきちんと記録することの重要性について概説する。(目標(3),(4))  第9回：子どもを理解し、具体的な援助に繋げるために、日々の保育実践を省察する術を説明し、</p>					

	<p>的確な評価観点で振り返ることの重要性について概説する。(目標目標(3),(4))</p> <p>第10回:子どもと環境の相互作用に着目し、とりわけ人的環境として発達を促す保育者の役割について、特に保育における記録という観点から開設する。(目標(2),(4))</p> <p>第11回:子どもを理解し、具体的な援助に繋げるために、子どもを中心に置きながら、職員間の対話を深めるとともに、保護者と情報共有を行うことの意義について説明する。(目標(3),(4))</p> <p>第12回:保育場面における子ども集団の特徴と子ども集団内で経験される育ちや葛藤、つまずきの意義について、特に保育における記録という観点から概説する。(目標(3),(4))</p> <p>第13回:保育場面における子ども集団の特徴と子ども集団内で経験される育ちや葛藤、つまずきの意義について、映像をみてグループワークを行うことで解説する。(目標(3),(4))</p> <p>第14回:保育場面での環境構成の重要性について学ぶとともに、環境の変化や移行が子どもにどのような経験をもたらすかについて、具体例を基に説明する。(目標(3),(4))</p> <p>第15回:発達の連続性に着目し、縦断的な発達援助及び就学支援を行っていくためのアプローチについて概説する。(目標(3),(4))</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>授業で取り組む課題(レポート・ワーク・小テスト等)の内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポート等の課題が全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。なお、レポート・ワーク・答案等の提出物へのフィードバックについては、授業中に口頭で行う。</p>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習:毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習:学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある</p>
テキスト	<p>授業時に資料、ワークシートを配布する。</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書:文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領・保育所保育指針(原本)』チャイルド本社</p> <p>参考資料等:適宜提示する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します。</p>
オフィスアワー	<p>メール等で連絡をしてアポを取ること。</p>